

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆1月の景気動向指数、2カ月連続で上昇 車生産が正常化

・内閣府が発表した1月の景気動向指数(CI、2020年=100)は足元の経済状況を示す一致指数が前月から0.1ポイント上昇して116.2。上昇は2カ月連続。認証不正問題による出荷停止の影響を受けていた自動車メーカーの生産活動が正常化し、全体の押し上げに寄与。基調判断は「下げ止まりを示している」で据え置いた。

◆経常収支2年ぶり赤字 1月2576億円、「春節」も影響

・財務省が発表した2025年1月の国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引状況を示す経常収支は2576億円の赤字。赤字は23年1月以来、2年ぶり。中国の春節(旧正月)を背景に貿易収支の赤字幅が拡大したことが影響。貿易収支は2兆9379億円の赤字で、赤字幅は前年同月から92.9%膨らんだ。

◆実質賃金1月1.8%減、3カ月ぶりマイナス 物価高響く

・厚生労働省が発表した1月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上)によると、物価変動の影響を除いた実質賃金は前年同月比1.8%減。物価高に賃金上昇が追いつかず、3カ月ぶりの実質マイナスだった。実質賃金のマイナス幅は2024年3月以来の大きさだった。名目賃金を示す現金給与総額は2.8%増の29万5505円だった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆国産合板が2カ月連続値上がり 在庫減でコスト転嫁進む

・住宅の壁や屋根に使う国産針葉樹合板の流通価格が、2カ月連続で上昇。合板は丸太を薄く削った板を貼り合わせることで強度を高めた木材。生産調整を進めてきた主要メーカーが、在庫の減少を背景に運搬費や原料コストを転嫁した。木造住宅着工は価格の上昇で振るわない。合板の値上がりが続くかは不透明。

◆新築戸建て、東京23区で半年ぶり最高値 好立地が上昇

・不動産調査会社の東京カンテイ(東京・品川)がまとめた2月の新築小規模戸建て住宅の平均希望売り出し価格は、東京23区が前月比2.4%高い7859万円と2014年4月の調査開始以来の最高値を更新。23区の中でも都心への交通利便性がよいエリアで特に価格が上がり、全体をけん引した。

◆YKK次期計画、AP事業は高断熱窓・ドアリフォームに重点 海外事業も注力

・YKKグループは3第7次中期経営計画(2025～2028年度)と2025年度経営方針を発表。AP事業の業績は売上高が5624億円(前年比4.5%、計画比2.7%減)と、4年連続で過去最高を更新する見込み。国内における高断熱窓・ドアリフォームの市場浸透を推進。省エネ改修需要への対応として樹脂・木など窓素材の最適化を行う。

《 注目商品 》

■リンナイ、イタリアデザインのレンジフード「AGG」シリーズ

・イタリアデザインのレンジフード「AGG」シリーズを発売。イタリアのエリカ社と富士工業の合併会社であるアリアフィーナのブランドフィロソフィーを踏襲したレンジフード。風量おまかせ運転や、お掃除のしやすい構造により、美しさと機能性を兼ね備える。



■カツデン、組み立て式で工期を短縮 「APPROAD(アプロード)」

・ノックダウン(組み立て式)のシースルーアプローチ階段。現場で組み立てるだけの簡単施工で、工期にあわせてスケジュールを調整できるため、外構業者の負担やコスト削減につながる。軽量で地盤沈下のリスクを最小限に抑え、メンテナンスも容易にできる。



■DNライティング、小さく曲がるLEDモジュール「FXCシリーズ」

・曲げ方向が選べる細型フレキシブルLEDモジュールを新しくラインナップ。断面サイズ11mm×11mmの小型で、粒感のない発光面、直線・曲線に沿いながら同じ光量・配光で設置可能な従来品の屈曲性を増し、小さく曲がるように。

